

誰かの力になれるダンスを ジャングルキッズ・チャリティ発表会報告

11月8日、ジャングルキッズスポーツ少年団が、チャリティ発表会で集まった義援金110,457円を日本赤十字社に送るため、市川市長に報告に訪れました。このたびの台風・豪雨災害の被災地の復興に役立ててもらえるよう発表会で呼びかけ、「誰かの力になれるダンスができ、募金をしてくれた皆さんにお礼を言いたいです」と目を輝かせました。



▲義援金を持つジャングルキッズ6年生、齋藤監督と市川市長

クラブの飛躍と地域の活性化を目指して NPO法人 BSスポーツクラブ にかほ創立10周年

11月16日、金浦公民館でNPO法人BSスポーツクラブにかほ創立10周年記念式典が行われました。式典は来賓をはじめ多くの会員らが見守る中行われ、当クラブの柴田鐵四郎理事長が式辞を述べたほか、来賓を代表して3人から祝辞が送られました。また、式典後には記念講演と祝賀会も行われ、10周年の節目を祝いました。



▲来賓と大勢の会員の前で式辞を述べる柴田理事長

大賑わいの浅草でにかほの魅力を発信 第11回秋田「にかほ市」大物産展

11月16日、東京都の浅草神社境内で秋田「にかほ市」大物産展が開催されました。江戸時代以降、この付近に浅草象潟町という地名が残っていた縁で毎年続いている大物産展。外国人観光客など大賑わいの浅草で、多くの人がかほの魅力ある商品に足を止めるとともに、PRに同行した「ナマハゲ」も大人気で記念撮影の行列が絶えませんでした。



▲かりんとうの試食に足を止める参拝客

東京の地でふるさとにかほを想う 第12回にかほ市ふるさと会

11月17日、東京プリンスホテルで第12回にかほ市ふるさと会が開催され首都圏在住者ら228人が参加し、懐かしのふるさとに思いを馳せました。今年の余興に出演したのは女優の浅利香津代さん。軽快な秋田弁トークで「にかほネタ」を披露したほか大抽選会にも参加。当選者は浅利さんから直接プレゼントを受け取り大満足の様子でした。



▲にかほ市出身者が一堂に集うふるさと会の様子



第10回 佐藤勤六商店

毎度、ご愛顧いただいております千客万来にか本舗、記念すべき第10回は、いちじくの里・金浦大竹に店舗を構える老舗、佐藤勤六商店さんです。

もともと酒販店だった佐藤勤六商店、4代目の佐藤玲さんが店を継ぎ、いちじくの製造と日本酒の販売に絞ったのが今から15年前。北限のいちじく、その魅力と商品性に可能性を感じ、地元生産者の皆さんの協力を得ながら、現在は一年を通して、甘露煮をはじめとした商品を製造・販売しています。そして、近年いちじくの知名度を飛躍的に高めたのが「いちじくいち」です。秋田県のフリーマガジン『のんびり』の編集長・藤本智士さんが仕掛けた、廃校を活用したいちじくのマル

千客万来 にか本舗

広報で伝える市内店舗の魅力(商工会加盟店の紹介と人気商品の読者プレゼントコーナー)

シイイベント。4回目となる今年も多くのお客さんで賑わい、仁賀保高校生や大学生の皆さんが参加し新しい繋がりが生まれました。今後も企業の皆さんの参加や上郷フェスティバルとの共同開催など、いちじくに関係がない方たちとの繋がりで新しい形を模索しながら更なる成長が期待されます。

今回、佐藤勤六商店さんから「いちじく甘露煮」と「いちじくいち手ぬぐい」をセットで3名様様にプレゼント。砂糖と水飴で仕込んだ大竹のホワイトゼノアを、ぜひご賞味ください。



いちじく甘露煮といちじくいち手ぬぐいをセットで3名様様にプレゼント



佐藤勤六商店
所在地：大竹字下後26
時間：9:00～19:00
休業日：日曜日
問合せ先：☎74-3617

応募方法 ハガキ、FAX、QR (申し込みフォーム)
記入事項 発行号、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、『広報にかほ』への意見・感想等を記入
応募期限 12月25日(水)
応募先 〒018-0192
にかほ市象潟町字浜ノ田1
にかほ市役所
「広報にかほプレゼント係」
FAX 0184-62-9013 QRコード
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



鳥海山・飛島ジオパークリレーコラム 日本海と大地がつくる水と命の循環



秋田県水産振興センター 資源部 研究員 福田 姫子 氏

第60回 「日本海で命を繋ぐハタハタ」

北西の季節風が吹き荒れ、冬の稲妻が光る頃、ハタハタは産卵のため沿岸に大群で押し寄せます。このハタハタを小型定置網や刺網で漁獲する「季節ハタハタ漁」が始まり、浜が活気に満ち溢れる様子は、秋田県の初冬の風物詩として古くから県民に親しまれてきました。ハタハタは青森県の日本海側、山形県北部沿岸の水深約2～3mに繁茂するホンダワラ等の海藻に卵塊(ブリコ)を産み付けます。この海域はハタハタにとって命を繋ぐ大切な場所です。最盛期には秋田県だけで2万トン以上のハタハタの漁獲がありました。1991年には約70トンまで減少しました。ハタハタの資源を次の世代にも引き継ぐため、秋田県の漁業者は1992年9月から3年間の自主禁漁を決定し、解禁後も漁獲枠(漁獲上限)を設けるなど、資源保護に取り組みながら現在まで操業を続けています。

ところで、皆さんはどんなハタハタ料理が好きですか。私は定番の塩焼きが一番好きですが、昔ながらのハタハタ寿司や三五八漬に加え、近年は唐揚げやせんべいなど様々なハタハタ料理・加工品が登場しており、店頭で新商品を発見することが楽しみの一つでもあります。今年も定番料理に加え、新しいハタハタの味覚を探してみたいか、ハタハタ選別の様子



▲ハタハタ選別の様子